

オンライン学習者の挑戦と成功要因: アンケート調査結果から

Challenge and Success Factors of Online Learners: An Analysis of a Survey

鈴木 克明

Katsuaki SUZUKI

熊本大学

KUMAMOTO UNIVERSITY

＜あらまし＞ オンライン学習者が置かれている状況を把握するための国際調査の一環として英語でのアンケート調査を日本語化して REAS 上で実施した結果の一部を報告する。予備的調査の性格で ibstpi® が 2007 年度に実施した調査は記述式項目を中心に 58 の質問から構成されていた。日本語版を 3 つのオンライン大学に通う大学生・大学院生に回答を求めた結果、回答者 38 人のうちの多数はオンラインでの学習に満足しており、機会があればまたやりたいと答えた。満足度に影響を与えると指摘した事項は、コースそのもの、教授陣の要素、学習者間の相互関係、学習環境の柔軟さと利便性の順であった。オンライン学習者としての成功要因の重要度に対する回答をまとめた。

＜キーワード＞ 高等教育、遠隔教育・学習、学習環境、調査、オンライン学習

1. はじめに

2007 年に発表者が理事を務める国際団体 International Board of Standards for Training, Performance and Instruction (以下、ibstpi®) がオンライン学習者を取り巻く状況を把握するための Web 調査を実施した。ibstpi® は教育関連専門職に要求されるコンピテンシー（職務遂行能力）の国際基準を策定している団体である。近年 ICT の発展とともに広がりを見せているオンライン環境下の教育機関では、教育提供者のみならず受益者にも何らかのコンピテンシーが求められるのではないかと、との議論があった。そこで、オンライン学習経験をもつ者を対象に、自らの学習経験における成功・失敗を振り返り、その要因を分析・報告してもらう目的での調査が行われることになった。米国・メキシコ・イスラエル・日本等で実施され、主として自由記述式の 58 項目から構成された調査結果の概要については、既に報告されている(Baudoin & Kurtz, 2008)。本稿では、日本語版への回答をより詳細に分析した結果を報告する。

2. 研究の方法

ibstpi® の Web 調査の一環として、発表者が英語版の調査用紙を日本語化し、REAS (柴崎・近藤 2008) 上に日本語版を準備した。国内の 3 つのオンライン大学に通う大学生・大学院生に教員を介

して無報酬の回答協力を求めた結果、合計 38 人の回答者からの有効回答があった。分析対象となった回答者の 42% (16 人) は女性で 58% (22 人) は男性だった。年齢は 20 代 (16%) から 30 代 (37%)、40 代 (29%)、50 代以上 (18%) と多岐に渡っていた。

回答結果は英語に翻訳されて、ibstpi® の分析に供された。今回の報告では、日本語での回答に基づいてその結果を報告する。

3. 結果と考察

オンライン学習経験の満足度を 5 件法で尋ねたところ、とても満足 (16%)・満足 (42%)・まあまあ (36%)・不満 (3%)・とても不満 (3%) であった。かなり時間を要するアンケートであり、報酬もなかったため、かなり満足度が高い学生・大学院生のみが回答を完了した影響もあったと考えられるが、肯定的な結果であった。「もう一度オンライン学習をしたいか」の質問には 92% が「はい」と回答した。

満足度に最も強く影響を与えた要因は何かを記述した自由回答では、「コースそのもの」が 66% の回答者が指摘して最も多かった。好意的に受け止められた理由としては、「他では受けられない内容の教育」、「仕事に直結」、「興味深く意義がある」、「対面教育と同等の内容」、「知的な刺激がある」などが挙げられた一方で、「数年前に撮影し

た古いビデオ」、「科目ごとの格差が激しい」などが否定的な影響理由として挙げられた。

影響要因として次に多かったのは「教授陣の要素」(45%)、「学習者間の相互関係」(42%)、「学習環境の柔軟さや利便性」(37%)の順であった。「教授陣の要素」に関しては、直接対話できること、教育への熱意と威厳、豊富な経験と権威、助手からのタイムリーなフィードバックなどが述べられていた。「学習者間の相互関係」では、互いに刺激を受けて視野が広がったことや非同期でも濃密な対話が可能であることへの驚きが語られる一方で、書き込みを読んでいらした経験や、オフラインでの関係が必要であることなどが述べられていた。「学習環境の柔軟さや利便性」については、場所と時間が選べること、繰り返し視聴できるビデオ、学習のペースを自分で決められる自由度、オンラインクイズでの即時フィードバック、掲示板での意見交換などについて述べられており、自分なりの学習スタイルを確立している様子が伺えた。

他方で、学習経験での障害になったことが何かを尋ねた項目では、時間管理が最頻（45%）で、働きながらの時間の確保の難しさや細切れの時間を積み重ねて課題を完成させることの困難さ、あるいは学習スケジュール上の制約などが述べられていた。続いては、オンラインでのグループ活動の困難さ（24%）、職場と自宅でのネットワークを介しての学習環境を整えるまでの技術的ハードル（16%）、オンラインの学習活動をこなすための学習スキルや講義を理解するための基礎知識の不足（16%）が挙がっていた。

図1にオンライン学習における成功要因の重要度についての回答結果を示す。10 要因を示したのち、「追加したいその他の項目」を2つ挙げさせて、その後にそれぞれの重要度を4件法で尋ねて理由を聞いた。その結果、最も重要度が高かったのは「自分の学習意欲」と「自分の時間を管理する能力」であり、リストされた項目に各自が追加した2項目の平均重要度（3.4位）よりも高い結果となった。

「追加したいその他の2項目」として挙げられた全55項目の約半数は、自己実現・目的の自己決定・精神的な強さ・学習スキル・健康管理・家族の支援・財政基盤など、学習者個人のスキルや考え方であった。もう半数は、システムの使いや



図1：オンライン学習の成功要因（重要度）

注：38人からの回答を得点化し、平均点の降順に並び替えたもの
図中の数字は回答者数を示す。

すさや入門的講座の提供・適切で難易度が適切な課題設定・高品質のコンテンツ・信頼できるスタッフ・簡便な進捗管理・即時フィードバックの提供・レファレンスサービスの提供など、提供者側へのリクエストであった。

謝辞

本研究を行うにあたり、不破泰氏と向後千春氏から得た協力を感謝します。

参考文献

- Beadoin, M., & Kurtz, G. (2008, Oct.). Experiences and Opinions of E-Learners: What Works, What Doesn't, and Why? A paper presented at the Fifth EDEN Research Workshop, Paris.
- 芝崎順司・近藤智嗣(2008). Web を利用したリアルタイム評価支援システム REAS の機能と運用. メディア教育研究, 4(2), 29-36.